

「脱北者の話を聞く集会」プログラム

2018.06.14

於) 自民党群馬県連ホール
司会・進行・荒木恵司 議員
群馬拉致議連・幹事

1. 挨拶・・・群馬拉致議連・会長 腰塚 誠 議員
2. はじめに・・・非営利法人・北朝鮮難民基金・代表 加藤 博さん (プロフィール下記)
「北朝鮮実態を完全把握」することでは、日本でこの方の右に出る者はない。
3. 脱北者
佐藤 美子 (サトウ ヨシコ) さん
荒川 昌子 (アラカワ マサコ) さん
通訳・梅田 玉姫 (オッキ) さん

▲▲▲ 展 示・・・入り口のところで 加藤さん説明
北朝鮮「全巨里(チョンゴノリ)教化所」の実態脱北者手書きイラスト15点

☆☆☆ 加 藤 博さん・プロフィール ☆☆☆

- 1945年 福島県磐梯村生まれ。1968年立教大学文学部仏文科卒。
ジャーナリストとしてベトナム戦取材。1975年までベトナム、ラオス、カンボジアの移動特派員。
- 1986年 フィリピンのマルコス独裁政権の崩壊、ベルリンの壁の崩壊、チェコのビロード革命、バルト三国の独立運動、東欧の市民革命、ソ連共産党の崩壊など、『文藝春秋』、『週刊文春』記者として活動。
- 1991年 シベリアの北朝鮮木材伐採労働キャンプの取材。
- 1998年 北朝鮮難民救援基金の創立メンバーとして設立に参加。
- 2002年 中国で北朝鮮難民救援中に中国安全局(諜報機関)により拘束、国外退去処分。
- 2006年 朝鮮民主主義人民共和国安全省(現保安省)より逮捕状を執行され、ハノイでの日朝交渉で身柄引き渡し要求を受ける。
- 2009年 東京弁護士会から「人権賞」を受賞。
- 2010年 アメリカ国務省から「自由擁護者賞」にノミネート。
現在、NPO 法人北朝鮮難民救援基金理事長。

・・・裏面につづく・・・

著 書

- 『地図にない国からの報告』晩聲社刊
写真集『KAWTHOOLEI』
『フィリピンの黄色い革命』大月書店刊
『Are They Telling the Truth』共著 晩聲社刊
その他月刊誌への寄稿等。

◆◆◆ 講師プロフィール ◆◆◆

☆☆☆ 佐 藤 美 子さん (仮名) ☆☆☆

- 1971年 咸鏡北道で日本人の母、韓国人の父親の次女として生まれる。父親は1967年日本から帰還船で北朝鮮へ渡るが、スパイ容疑で咸鏡北道の田舎の果樹園に配置される。
- 1988-1993年 洋服縫製工場に勤務
朝鮮戦争の韓国軍捕虜を探す夫に協力したことで指名手配を受け、監視対象になる。
- 2002年 脱北、ロシアのシベリアに近い吉林省琿春のキリスト教会で保護を受ける。
- 2006年 NPO北朝鮮難民救援基金と連絡が取れ脱中国を考える。
- 2010年 脱北難民となり、中国吉林省から雲南省を経てタイに入国
- 2011年 日本入国許可、日本語の学習、さまざまな仕事を経験し、現在は内装工事会社を経営。
一女の母。

☆☆☆ 荒 川 昌 子さん (仮名) ☆☆☆

- 1952年 埼玉県北足立郡で韓国人の父、日本人の母の間に長女として出生。
- 1963年 父母と帰還船で北朝鮮に渡る。当時11歳。
母親は朝鮮語を話すことができず、苦勞しながら3人の子どもを育てる。最後まで日本に帰りたいと涙を流しながら死んだ。
- 1983年 咸鏡北道の炭鉱の爆発事故で夫が爆死。生活苦に陥る。
- 1995年 食糧配給がとまり給与もとまった。
日本からの帰還者の子どもだとの理由で監視対象になり、小さな商売も許されず生活苦が続いた。
- 2002年 あまりの生活苦で北朝鮮を脱出。中国黒龍江省で老人介護の仕事をしながら、資金稼ぎをして日本に帰る準備を始める。
- 2007年 生活に苦勞しながら中国を脱出する道を探した。雲南省からラオスに入国。日本国籍の確認後、日本政府の入国許可で日本に上陸。